

『ゴーン前会長は「私は無実です」と言ったのか』

北川則道

言葉に現れた企業行動と課題を探る

一意見陳述書を日本文・英文で読み比べる

- 1、言葉を人、空間、時間の現わし方で解析すると背景が浮き上がる（仮説）
- 2、ゴーン前会長の意見陳述書を素材とした日英対照（実証）
- 3、最近の言葉から企業行動を分析し課題を推察する（実践）

1、意見陳述書（2019/1/8 開示公文書。日本語・英語の対照）

1) 人；分けることから始まる

<英語> 5. Conclusion

「I am an innocent of the accusations made against me. I have always acted with integrity and have never been accused of any wrongdoing in my several –decade professional career. I have been wrongly accused and unfairly detained based on meritless and unsubstantiated accusations.」

<日本語> 5、結び

「私にかけられている容疑は無実です。私は常に誠実に行動してきており、数十年にわたるキャリアにおいて不正行為により追求されたことは一度もありません。私は、確証もなく容疑をかけられ、不当に拘留されています。」

(1) 「たかが an, されど an」

特定のことを指示する a(n)。「1～4 ですすでに述べた通りの」を受ける。日本語で表すとすれば、「無実な人間です」と一語補う必要がある。innocent はここでは名詞。なぜ形容詞で使わなかったのか。

無実を自分で証明することほど難しいものはない。他人から見ても、客観的に無実の人間(名詞形)だ、と強調しておきたい。自分は正直だと言いつ張るより、あいつは正直な人間だ、と言われる方が真実味がある。

(2) **wrongly and unfairly** ; 「正義」(the right thing to do) を2つに分ける
 wrongly; なにが正しく(善)、なにが間違っている(悪)か、の確証もされずに。
 unfairly ; 決められた法の手続きに則っていない、不当に。

2) , 空間；強い意志の支配

1) 主語の **moral commitment** は動作主（原因を生じた責任者）

<英語> 1, The FX Forward contracts

「Resign from Nissan ,so that I could receive my retirement allowance,

which I could then use to provide the necessary collateral. But my moral commitment to Nissan would not allow me to step down during that crucial time; a captain doesn't jump ship in the middle of a storm.」

<日本語> 1、為替スワップ契約について

「日産を退職して、退職金を受領して、これを銀行に担保として差し入れるということです。しかし、私には日産への道義的な責任があり、この重大な局面かで退任することはできませんでした。船長は、嵐の最中に船から逃げ出すようなことはできないのです。」

「ゆるぎ無い信条」は「武士に二言なし」に通じるもの。船長と同じだ。日産とは一蓮托生の (to Nissan) ゆるぎない信念 (moral commitment) が、この期におよんで放り投げることをさせなかった。それは沈みかかった船の船長と同じ思いだ。日本語では副詞句的になり、意識しないと弱くなる。日本語では主語を省いても状況で判断する。英語は省いたら成り立たない。

2) 公に入り込む **my children, family** (私)

<英語> 「I have long been concerned about the volatility of the yen relative to the U.S. dollar. I am a U.S. dollar based individual — my children live in the U.S. and I have strong ties to Lebanon, whose currency has a fixed exchange rate against the U.S. dollar. I wanted predictability in my income in order to help me take care of my family.」

<日本語> 「その時からずっと、私は米ドルに対する円の変動に懸念を抱いていました。私自身は、米ドル建ての生活を基本としております。私の子供たちは米国にすんでおりますし、私自身、米ドルとの固定為替レート制を取るレバノンと強い結びつきを持っています。そこで、私は、自分の家族を養うために、ドル建てでの収入が変動しないようにしたいと考えていました。」

公と私の区別には、官と民、企業と家、さらに身分（立場）の差による期待値が加わる。英語では家族のためを公言するのは、立場をこえた常識。日本語では、公的立場が強いほど、むしろ個人の事情を持ち出さない。内に収めることが、奥ゆかしく思われ、反発も少ない。ウチとソト。

3)、時間；視点と時間軸

<英語> 3, The FIFL Allegations

「In fact, various proposals for non-compete and advisory services post-retirement made by some members of the board did not reflect or

reference my internal calculations, underscoring their hypothetical, non-binding nature.」

<日本語> 3、金融商品取引法違反について

「実際、取締役らが作成していた私に関する退職後の競業禁止や顧問業務についての様々な提案がありますが、それは、わたしがつけていた上記の金額を反映していません。このことから、私のつけていた金額が法的な効力のあるものではないことがわかると思います。」

時間の捉え方

英語；一貫して過去形。視点はぶれない。

一直線の時間軸の上を過去から現在、未来に向かって進む。

時間は最後の審判までの有限。だからプロセスを重要視する。

日本語；過去形と現在形が入り混じり、最後は現在形でまとめている。

視点が過去に跳んで現在形でも表現する。現在が強く、結果を重視する。(輪廻転生、ゆく川の流れ一方丈記)

*「推定無罪」に現れた西洋/日本の時間軸の相違。法意識の相違でもある。

2、企業行動と課題を探る

1) 背景

業務の細分化・個別化を **AI が加速する時代**には、あらゆる品質が定量化され、個人単位に手渡される。人の臭いは消され、渡す相手はロボット(化した人間)になるかも知れない。その時だからこそ、**生きた言葉**を使える人間がより一層求められる。言葉は共有され(コミュニケーション)初めて企業行動の支えとなる。その為の普段の実践が必要である。

2) 実践の例

(1)「**Japan's Quality Control is Out of Control**」(Bloomberg,2017/10/11)

(「日本の品質管理は破綻している」)

① 分ける

米；ライン (inspection 検査) とスタッフ(examination 診断)は別
スタッフは quality management。検査は管理 (control) される。

日；ラインとスタッフの共同体としての品質管理 quality control。
ものづくりの原点。(TQC を TQM に変えたが)

米から見ると、control されるべきプロセスが破綻している、と映る。

② 空間(思想)

米；**Science and Technology** (二語)、

STEM 教育 (science, technology, engineering, mathematics)

日；**科学技術** (一語), technology も engineering も技術で分けられない。

元々 science が上位概念、engineering は下位。technology は結ぶ概念。

日本の大学には工学部はあるが技術部はなく、企業には技術部のみ。

技術の日産→developing the latest advanced technologies ,with plants to offer automotive drive・・・(The Alliance ;HP)プラットフォーム(GAFA など)がアメリカで先行したのも偶然ではない。
日本には職人の技はあったが technology の言葉はなかった。
品質管理という言葉には、日・米の思想の相違が含まれ、同床異夢が招く。

(2) 「ラストワンマイル」

英語: **last mile**; 「final step in the process that connects the end customer to a network」 (Merriam-Webster on-line) (プロセスの最後の行程)

視点; 企業→最終顧客の流れを、企業の定点から客観的にみる

日本語; 和製英語のカタカナ。最後の一步。

視点; 企業は流れの中で、客との距離を測りながら主観的に見る。

アマゾン (テクノロジー); クロネコヤマトが担う。アマゾンの顔は見えない
トヨタ (コネクテッドカー); 代理店 (身内) が担う。トヨタの顔はみえる。

3) 課題

1) カタカナ英語は噛み砕く

コンプライアンス; comply or, and の理解は日本人には伝わりづらい。
遵守、順守で強調→“なんでもコンプライアンス”

ガバナンス; トップの commitment.の重要性 (個性) が議論されない
トップの報酬; 日本企業は次の選択をトップの言葉に求められている
・プラットフォーム型; 市場評価。日本 (人) に拘らない。
・ものづくり維持型; 従業員との比率考慮。日本型連帯意識保つ。

2) コミュニケーションは顔の見える言葉で

AI は「顔」を見えなくすること、を加速する

インテリジェンスを知能と知性に分け、教養を養う。

教養は言葉の理解、つまりコミュニケーションでもたらされる。

3) 現場に近い言葉を素材にして企業行動を議論する。

モットー; 「現場から離れず、空論に流れぬよう」

議論; BERC の「言葉と企業行動」研究会 (2019/4~10 予定)

次ページにシラバス抜粋記載。

担当講師; 北川則道 特別参加講師; 岡田佳男、徳山 誠、栗栖徳雄、
櫻井功男 いずれも企業行動研究部会員

(文責は北川にあるが、5 人の見解が込められている)

(参考) 2019年度 BEREC 部会・研究会のシラバス

「言葉と企業行動」研究会～文理の壁を超える～

—行動は生きた言葉に現れる—

2. 本年度の実施内容 (毎月の実施内容、等) (日程は未確定で調整あり)

第1回; 4月18日 (木)

1、オリエンテーション

言葉が示す3つの特性—「トップの表明」から分かるもの

- (1) 時間; 「ラストワンマイル」の視点—結果とプロセス
- (2) 空間; 緊急時の法意識—誰が「ネギなしざるそば」を売るのか
- (3) 人; 組織と個人の伝え方—客観的な表現とは

2、募集; 「私の今年の言葉」

第2回; 5月16日 (木)

1、「まっとうな商いをしよう」

「擬き (もどき)」「手抜き」「お手盛り」を誘う3つの手

2、特別参加講師; 栗栖徳雄 (約1H)

「よりよいコンプライアンスのための3つのキーワード」: 「時のしるし」・「いまここで」・「対話」

第3回; 6月20日 (木)

1、「現在のところ問題は報告されていない」

「特採」に認められた「お互いさま」の同居

2、特別参加講師; 徳山 誠 (約1H)

「社長の胆力と大企業に潜む呪縛」—三菱自と日産

第4回; 7月18日 (木)

1、「すでに out of control (プロセス破綻) です」

「品質管理」に見る「ものづくり」と「テクノロジー」

2、特別参加講師; 櫻井功男 (約1H)

「ディベートを試みる」—論題; 日本企業が帰路に立つトピックから

第5回; 9月19日 (木)

1、「AIは“おまえさしずめインテリだな”と呼ばれるか」

コスパとお得感の判定—知能と知性の違い

2 特別参加講師; 岡田佳男 (約1H)

「日々実践! 伝わるコミュニケーション—大企業が忘れかけているもの」

第6回: 10月17日 (木)

1、カタカナ語はよく噛んで; 「バトンタッチ」と「たすきリレー」

企業の立ち位置を認識する (「マニファクチャー」から「プラットフォーム」)

2、投票で選ぶ「私の今年の言葉」 ◆